2015年度　FUJITSUファミリ会

春季大会

5月15日（金）、帝国ホテルにおいて、2015年度春季大会が開催されました。全国各地から集まった600名を超える会員の中には、メモを取りながら熱心に耳を傾けている姿もあり、盛況な大会となりました。

FUJITSUファミリ会会長　下條 泰利 氏

富士通㈱代表取締役社長　山本 正已 氏

早稲田大学ビジネススクール教授　遠藤 功 氏

大会に先立ち、2015年度総会が行われ、2014年度の活動報告と会計報告の後、2015年度の活動方針・予算・本部役員候補がそれぞれ承認されました。

春季大会は下條会長の挨拶で幕を開けました。2014年度の活動を総括された後、会員数が3,600会員を突破したことを報告。「昨年50周年を迎えた伝統あるFUJITSUファミリ会は、次の50年、100年へ新たな一歩を踏み出しました。共に力を合わせてつなげていきましょう」と締めくくられました。

富士通㈱山本社長は「Human Centric Innovation in Action」のもと、今年80周年を迎える富士通のイノベーションへの取り組みを述べられました。続いてこの6月に新社長に就任する田中副社長より、「Human Centric Innovation」とは「人や社会を幸せにする活動である」という宣言がなされ、式典の幕が下ろされました。

式典に続いて行われた講演では、早稲田大学ビジネススクール教授、㈱ローランド・ベルガー会長の遠藤功氏から「不確実な市場を生き残るには、俊敏で機動的な“現場力”が要となる。日本がかつて強みをもっていたこの“現場力”が、いま欧米でも注目されている」など、たくさんのメッセージをいただきました。

遠藤氏の講演の余韻が冷めないうちに始まった懇親会にも多数の方が参加され、大盛況のうちに2015年度の春季大会が終了しました。

懇親会

乾杯風景　挨拶　FUJITSUファミリ会副会長　鳥越 正敏 氏

挨拶

富士通㈱執行役員専務
小野 弘之 氏

司会

FUJITSUファミリ会理事
中島 昭能 氏

中締め

FUJITSUファミリ会
四国支部長
石元 啓介 氏

秋季大会開催予定の四国支部の紹介

Family 2015 365号

CONTENTS

- 2015年度 FUJITSUファミリ会 春季大会 …… 2
- ICT基礎講座Close-Up …… 6
  教育 ICT
- トップは語る …… 10
  沖縄県農業協同組合
  代表理事理事長　砂川 博紀 氏
- 講演録 …… 12
  早稲田大学ビジネススクール教授　遠藤 功 氏
- 豊かに生きる誌上セミナー …… 14
  HUMAN HUMAN
  サントリースピリッツ株式会社　佐々木 太一 氏
- Family's Information …… 15
- 支部見聞録（関西支部） …… 18
  From 近江

2015年度　FUJITSUファミリ会

総会報告

2015年5月15日(金)、2015年度総会が開かれました。

◆会長挨拶　FUJITSUファミリ会会長　下條 泰利
◆議長選出
◆総会議事　第１号議案（2014年度活動報告）
第２号議案（2014年度会計報告）
第３号議案（2015年度活動方針）
第４号議案（2015年度予算）
第５号議案（2015年度本部役員候補）

▲総会風景
◀議長　丹呉 長之輔 氏

2015年度活動方針　「語りあう夢、きそいあう知恵」

日本最大のICTユーザー会として、会員企業の課題解決やビジネスの成長に貢献すると共に、その基盤となる人財育成を支援する

－最先端ICT情報や企業活用事例を質・量ともに豊富に提供
－LS研を中心にした革新的な研究・開発活動の実践
－地域密着型行事や会員相互の研鑽・交流の促進

各種活動のさらなる活性化を図るため、従来の枠組を超えた企画の創出や体制の強化を図る

－本部・支部の連携、支部間の連携による新たなメニューの開発
－会員の増強、行事への参加を積極的に推進

社会貢献活動に継続的に取り組み、社会的責任を果たす

－東日本大震災復興支援をはじめとする活動の継続

2015年度全国活動

●行事関連

＊総会・春季大会：2015年5月15日（帝国ホテル）
総会および春季大会（式典、記念講演）、懇親会

＊秋季大会：2015年11月19日～20日
（サンポートホール高松、JRホテルクレメント高松）
記念講演、特別講演、セッションおよび懇親会、親睦会

＊海外セミナー：企業訪問および講演
＜マレーシア/クアラルンプール＞
2015年6月9日～13日
＜米国/サンフランシスコ・ラスベガス＞
2015年10月（30名程度）

●出版関連

＊FUJITSUファミリ会論文
2015年度募集：2015年4月～、原稿締切：9月30日、結果発表：2016年2月予定

＊会報Family：年6回印刷物を発行
（掲載記事：技術情報、会員紹介、会員交流、文化関連、LS研究委員会関連 等）

＊eふぁみり（Web版）：随時発行

●その他

＊情報システム・ユーザ会連盟
ユーザー共通の問題解決と他ユーザーとの交流

＊システム監査講演会
2015年10月22日情報化月間の協賛行事として開催

2015年度本部役員

役職名などは2015年5月15日時点のものです。（敬称略）

	会員名	役職名	氏　名	備　考
会　長	サントリーホールディングス㈱	執行役員	下條　泰利	
副会長	㈱トウ・ソリューションズ	代表取締役	鳥越　正敏	
〃	山崎製パン㈱	執行役員　計算センター　室長	石毛　幾雄	
理　事	日揮情報システム㈱	代表取締役社長	中島　昭能	会長推薦
〃	テルモ㈱	理事	鈴木　実	会長推薦
〃	JFE システムズ㈱	代表取締役社長	西崎　宏	会長推薦
〃	日本通運㈱	IT 推進部長	伊藤　真喜夫	会長推薦
〃	TDK ㈱	経営システムグループ　G.M.	吉田　智之	会長推薦
〃	コスモ石油㈱	情報システム部長	前川　博幸	会長推薦
〃	三井化学㈱	システム部長	山崎　真	会長推薦
〃	北海道ガス㈱	ICT 推進部長	山田　隆一	北海道支部推薦
〃	㈱河北新報社	取締役　総務局長	小野木　克之	東北支部推薦
〃	水澤化学工業㈱	取締役　管理室長	丹呉　長之輔	関東支部推薦
〃	㈱システムクリエイト	取締役副社長	赤沼　正信	信越支部推薦
〃	㈱石川県農協電算センター	運用部　シニアアドバイザー	種池　満	北陸支部推薦
〃	三菱重工業㈱	ICT ソリューション本部　ソフトウエア技術部　次長	渡邊　光浩	東海支部推薦
〃	近鉄グループホールディングス㈱	事業開発・グループ連携推進部長	有司　順一	関西支部推薦
〃	中国ソフト開発㈱	顧問	山崎　義美	中国支部推薦
〃	㈱穴吹カレッジサービス	執行役員　ソフト開発事業部　事業部長	石元　啓介	四国支部推薦
〃	（公財）産業雇用安定センター 熊本事務所	参与	仮屋　博	九州支部推薦
〃	㈱システム・ビット	沖縄支社　システム開発事業部　部長	小波津　勝	沖縄支部推薦
監　事	㈱みずほ銀行	IT・システム統括第一部長	加藤　昌彦	
〃	朝日生命保険（相）	情報システム企画部　部長	竹添　英雄	

2014年度　FUJITSUファミリ会論文

入賞論文表彰

論文表彰では、論文委員会竹中委員長からの論文審査の経緯と結果についての報告に続き、ファミリ会 下條会長から賞状と賞金の授与がありました。会場は、入賞者の方々に向けた大きな拍手に包まれていました。

論文委員会竹中委員長から次のような報告がありました。「2014年度は、約30編のご応募をいただき、秀作論文3編、奨励論文1編、新人賞3編を入賞論文として選定させていただきました。入賞論文は、例年に増して会員の皆様に役立つ、実用的なテーマが揃いました。論文委員会としての評価が高いだけではなく、会員企業にとっても大いに参考になる内容です。また、新人賞は、業務を経験する中でぶつかった壁にどう対処していくか、新人らしい視点で記述されており、今後の活躍を予感させるものでした。秀作論文と奨励論文の4編につきましては、5月14日開催の『富士通フォーラム 2015』の中で発表していただき、多くの皆様に聴講いただきました。最後になりましたが、論文を執筆いただきました皆様、審査を担当いただいた論文委員会の方々にお礼申し上げ、ご報告とさせていただきます。」

秀作論文の概要

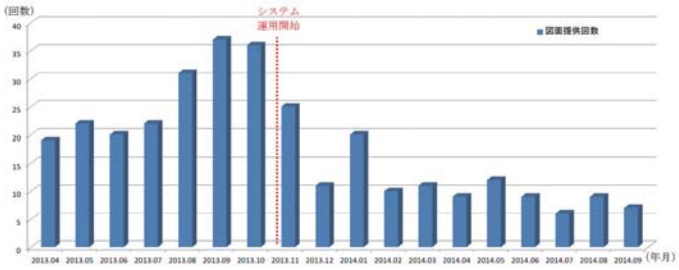
電子化した設計資料の安全・安心な社内公開と検索閲覧システム構築

株式会社安井建築設計事務所　情報・プレゼンテーション部 情報技術主幹
佐藤 賢一 氏

1 従来、紙ベースで行ってきた保管資料の閲覧

建築設計に関わる保管資料は、建物の設計図書や計算書、契約書など多岐にわたり、すべて重要な顧客（建築主）の情報である。増改築や改修工事あるいは災害時にも必要になる情報である。またこれらの資料は設計ノウハウでもあり設計事務所社員にとっては業務に必要な資料でもある。

これまで当社社員が過去の資料を確認・利用する際には、資料管理担当者へ依頼して原図やマイクロフィルムあるいは電子化（PDF化）されたものから必要最小限のコピーや出力をして紙による提供を行ってきた。さらに貸出台帳に記録し、原則社外持出不可というルールを設けていた。



大阪事務所における月別図面提供回数推移グラフ

2 暗号化 PDF ファイルによる検索・閲覧・印刷システム

重要な資料の紛失や破損を防ぐだけでなく、容易に複製・転送が可能な電子データによって流出することを防ぐためにも、資料管理担当者は他の業務と兼任しながらこのような資料提供業務に時間を掛けてきた。そこで資料提供業務を軽減すると同時にセキュリティを確保した資料提供実現のために、資料の PDF 化を加速し、その PDF ファイルを暗号化して簡易に検索・閲覧・印刷できるシステムを構築した。資料管理担当者だけでなく資料利用者にとっても効果のある業務改善を行うことができた。

本論文では、電子化しただけでは活用が難しい資料を安全・安心そして低コストで社内公開するためのポイントとその効果について述べる。

受賞者の声　文書を電子化してみたものの、それをいかに効率的に役立てたらいいのかわからない…そのような悩みを持っていらっしゃる企業の方は多いではないでしょうか。そうした普遍性のあるテーマで論文を書いた点が評価につながったのだと思っています。

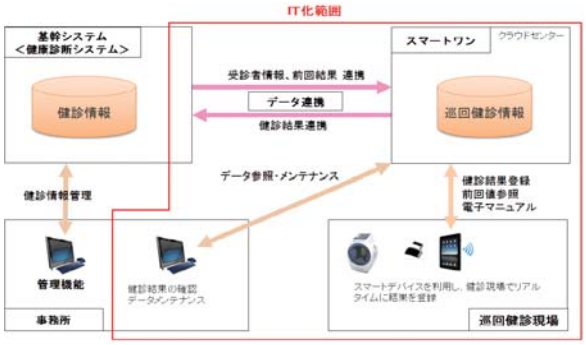
巡回健康診断から始まるIT推進 スマートデバイスを利用したシステム構築

一般財団法人淳風会　健康管理センター IT戦略部 企画管理課係長
小笠原 和志 氏

1 OCR 帳票による煩雑な業務

一般財団法人淳風会では近年急速に普及しているスマートデバイスに着目し、巡回健康診断においてスマートデバイスを利用するシステム「スマートワン」の構築を行った。健診機関が事業所などに出向いて行う巡回健康診断では、情報入力手段として長らく OCR 帳票が広く使用されている。

当財団においても OCR 帳票を使用していたが、OCR 帳票読込後のチェック業務の煩雑さ・OCR 帳票誤読による訂正等の業務課題を抱えていた。



スマートワンシステム連携図

2 スマートデバイス活用による業務改革

情報入力手段を OCR 帳票からスマートデバイスに変更することで課題解決を図り、さらにはスマートデバイスを活用した IT 推進により、業務の標準化や作業時間の短縮といった効果を得て、顧客満足度を向上させることがシステム構築の最終目的である。

システム構築にはアジャイル開発手法を選択した。巡回健康診断は契約種類が多いため、最初に仕様を確定させるウォーターフォール開発手法では仕様間違いや仕様不足といったトラブル発生が予想されたからである。

当財団のシステム構築でアジャイル開発手法の採用は初めての試みであった。本論文では運用開始に至るまでのシステム構築紹介と、運用開始から現在までに得られた成果と課題の考察を行い、これからの展望について論じる。

受賞者の声　今回応募した論文は、『論文執筆の手引き』が大いに役立ちました。少し多めに書いておいて、そこから言葉を絞り込み、削っていけばうまくかける点など、参考になることばかりでした。チームの代表として受賞できたことを大変うれしく思っています。

（左より）
渡邉 奈津美氏、加藤 千尋氏、
矢幡 峻輔氏、佐藤 麻依子氏、
小作 祐史氏、小笠原 和志氏、
佐藤 賢一氏

金融基幹系プロジェクトへのアジャイル適用における課題と解決策

東京海上日動システムズ株式会社　生保本部 本部長代理
小作 祐史 氏

1 金融系基幹システム初のアジャイル型開発

本論文は、保険ビジネスが非常に複雑かつ急速に変化する中で、最新の「メソドロジー」「フレームワーク」「テクノロジー」を駆使することで、生命保険基幹業務システムを極めて短期間で開発した事例の中から、特に「メソドロジー」であるアジャイル型開発にフォーカスをあて纏めたものである。

昨今の時代は、金融系システムでもお客さまサービスが始まり、スピードやユーザビリティを最優先とする仕組みが必要とされ、アジャイルのニーズが高まった。

開発パートナー会社との契約

金融業界の中でも、特に保険業界を取り巻く環境は、顧客ニーズの変化や IT 技術の進展、法順守、他社システムの動向など変動面が多い。長期間に亘って開発していては、完成時期にニーズが変わってしまうおそれがある。

2「あんしんらくらく手続き」の概要

本事例で取り上げる「あんしんらくらく手続き」も、従前であればウォーターフォール型でシステムを開発し、数年間かけて普及、展開させていったものと思われるが、業界市場ニーズの変化スピードが加速しているため、システムもこれに応じた。「らくらく手続き」はアジャイルで作り上げたからこそ完成したと皆が口を揃える。 逆に言えば、ウォーターフォール型開発ではこの期間では完成できなかった。

今回、金融業界の中でもいち早くアジャイルにチャレンジし、実際に開発して成果として得られたこと、課題として明らかになったこと、そして今後の開発にアジャイルを適正かつ有効に活用するためには、どんな取り組みが必要なのかを、本論文で報告する。

受賞者の声
今回の論文は、去年の夏にセミナーで講演した内容がベースになっていますので、スムーズに論文化できました。金融基幹系では国内初となったアジャイル開発の手法・プラクティスが高く評価され、受賞に至ったのだと思っている次第です。

奨励論文の概要

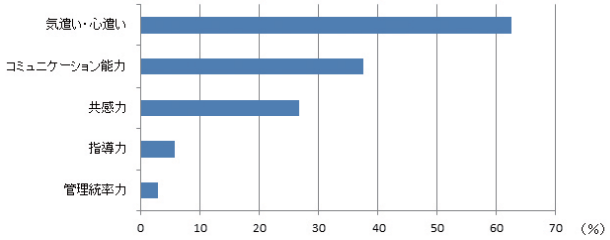
育児から学ぶマネジメント力 ー育児の経験を仕事に活かすためにー

JFEシステムズ株式会社　鉄鋼関連事業部 関連企業第一システム部
佐藤 麻依子 氏

1 育児経験は仕事に活かせるひとつの“キャリア”

2014 年 4 月に 2 回目の育休から復帰し、現在、短縮勤務制度を利用している。制度利用前は仕事量を残業でカバーしていた私が、勤務時間にバッファのない短縮勤務をするには、働き方を見直し改善する必要があった。

働き方の見直しをする過程で、仕事には家事・育児と多くの共通点があり、育休の経験は仕事に活かせるものだと気づいた。育休はキャリアの空白と言われるが、決してそうではない。



女性管理者の方が上回っている能力（複数回答）　＊原出典：日本経営協会

家庭との両立をしながら仕事をするための工夫、また、それが働き方に与える影響について自身の経験を踏まえ考察する。

2 男女ともに「ワークライフバランス」の見直しを

育児期間はキャリアの空白などではなく、仕事を効率的かつ円滑に進めるためのスキルが向上する期間であるという点において、「育児もキャリア」である。最後に結論に代えて、育児と仕事を今後も上手く両立させていくために、ワークライフバランスの向上という観点で提言を述べさせていただきたい。女性の社会進出というと、女性に特化した制度を増やそうとすることが多い。しかし、多くの女性は制度に守られているとはいえ、周りが残業している中で自分だけが先に帰宅することに後ろめたさを感じている。男性を含めた長時間労働の見直しは、男性の家庭進出や、社員全員の生産性の向上とともに女性の働きやすさにもつながるものである。ワークライフバランスの向上は社員の努力のみでも会社の制度のみでも成り立たない。双方が揃ってはじめて実現できるものである。

受賞者の声
今回の論文は主人にアドバイスをもらいながら、夫婦二人三脚で書きあげたといっても過言ではありません。奨励賞を受賞したことで、まわりの多くの方々から共感の声をいただきました。この論文を機に、改めて自分の働き方を見直すきっかけになったと思います。

ICT事例論文をもっと活用しよう。

ファミリ会では、会員企業の課題解決に役立つさまざまな事例を募集中です。日常業務を通じて経験された ICT 事例はもちろん、「人財育成」や「ワークライフバランス」などといった広範なテーマも大いに歓迎します。
ファミリ会のホームページには2014年度の入賞論文をはじめ、約400編以上の論文が掲載されていますので、ぜひ課題解決のヒントとしてお役立てください。

※16ページの2015年度論文募集詳細をご覧ください。